平成20年度（対19年度実績）

事　務　事　業　評　価　表

作成日　平成　20　年　5　月　28　日

部局名	産業活力部	所属名	農政課	所属長名	立石　眞	電話	483-1151 内線3560

1．事務事業の位置付け・概要（ＰＬＡＮ）

コード	3265	事務事業名称	畜産振興事業	短縮コード	経常	3265	臨時	3616

予算区分	会計	01	一般会計	款	06	農林水産業費	項	01	農業費	目	05	畜産業費

区分	☑ 自治事務　☐ 法定受託事務　☐ その他	根拠法令等	家畜伝染病予防法、家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律、八千代市家畜防疫事業補助金交付要綱、八千代市畜産環境保全事業補助金交付要綱、八千代市畜産振興活性化推進事業補助金交付要綱

事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）

本市農業の基幹である畜産業の振興を図るため、家畜の伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防止のための家畜の予防検査及び予防接種の実施、また、都市化・混住化の進む本市において必要不可欠である家畜排せつ物の適正処理による畜産環境の保全を行う。

事務事業を取り巻く状況の変化　又、今後の変化の推測

畜産農家は、年々減少の傾向にあるが、伝染病の予防・農村環境の保全・食の安全に対して市民の関心が高まっている。

総合計画の施策体系			
５本の柱（章）	05	産業活力都市をめざして
大項目（節）	01	農業
中　項　目	01	農業
小項目（施策）	02	農業経営体の育成
細　項　目	01	営農・経営支援体制の強化
実施計画の計画事業		

計画事業の位置付けの有無	☐	計画事業期間	～	計画事業費	千円

２．事務事業の目的・指標・実績（ＤＯ）

対象（誰を何を対象にしているのか）	市内畜産農家　家畜防疫事業(八千代市家畜防疫協会)，畜産環境保全事業(八千代市畜産環境保全組合)，畜産振興活性化推進事業(八千代市畜産協会)
手段（具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成19年度に実際に行ったこと： 家畜防疫事業により、市内畜産農家（酪農・養豚・養鶏）の飼養する家畜に対し、予防接種を実施し、伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防止する事業に対して補助を行った。畜産環境保全事業により、家畜より排せつされた糞尿の適正な処理を行い、農村環境の保全する事業に対して補助を行った。 ※平成20年度に計画していること： 家畜防疫事業により、市内畜産農家（酪農・養豚・養鶏）の飼養する家畜に対し、予防検査及び予防接種を実施し、伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防止する事業に対して補助を行う。畜産環境保全事業により、家畜より排せつされた糞尿の適正な処理を行い、農村環境の保全する事業に対して補助を行う。畜産振興活性化推進事業により、共進会等を行い、畜産農家の技術の向上を図るとともに市民の畜産業に対する理解を深め、市内畜産業の発展を図る事業に対して補助を行う。さわやか畜産総合展開事業により、堆肥化施設の整備を行い、市内における畜産周辺環境の保全、また、生産された堆肥の有効利用により、農業の持続的発展を図る事業に対して補助を行う。
意図（何を狙っているのか）	・伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防止 ・農村環境の保全 ・畜産農家の技術向上及び市民の畜産業に対する理解の向上
結果（どんな結果に結びつけるのか）	入力対象外

区分			単位	１８年度	１９年度		２０年度
				実績	計画	実績	計画
対象指標	指標１	家畜	頭羽	13,282	15,600	15,087	22,600
	指標２	畜産農家	戸	30	30	30	30
	指標３	畜産農家	戸	30	30	29	29
活動指標	指標１	予防検査及び予防接種	頭羽	13,282	15,600	15,087	22,600
	指標２	家畜尿処理	頭	1,727	1,750	1,601	1,650
	指標３	活動団体	団体	1	1	1	1
成果指標	指標１	家畜予防注射実施頭羽数	頭羽	13,282	15,600	15,087	22,600
	指標２	八千代市畜産環境保全組合参加戸数	戸	12	12	12	12
	指標３	八千代市畜産協会参加戸数	戸	30	30	29	29
上位成果指標	指標１						
	指標２						
	指標３						

コード	3265	事務事業名称	畜産振興事業	所属名	農政課

			単位	１８年度	１９年度		２０年度
				実績	計画	実績	計画
事業費(A)	財源内訳	国	千円	0	0	0	0
		県	千円	150	2,250	0	11,500
		地方債	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	6,420	7,418	6,215	11,469
		その他	千円	0	0	0	0
	主な事業費の内訳			家畜防疫事業1,209千円、畜産環境保全事業5,000千円、畜産振興活性化推進事業133千円、たい肥利用促進集団育成支援事業150千円	普通旅費21千円、消耗品費8千円、負担金27千円、補助金9,612千円	普通旅費19千円、消耗品費8千円、負担金27千円、補助金1,161千円	普通旅費21千円、消耗品費17千円、使用料20千円、負担金29千円、補助金22,882千円
人件費(B)			千円	10,112.3	10,098.4	9,898.3	9,898.3
トータルコスト(A)＋(B)			千円	16,682.3	19,766.4	16,113.3	32,867.3

３．事務事業の評価（ＳＥＥ）

評価類型	評価事項	評価区分	理由
目的妥当性	①事業目的が上位の施策に結びついているか？	☑ 結び付いている ☐ 結び付くが見直しの余地がある ☐ 結びつきが弱い・ない ☐ 評価対象外事項	家畜の伝染病の発生予防及び蔓延の防止、また、生産環境を整備することにより、畜産農家の経営支援体制を強めるために必要である。
	②すでに所期目的を達成しているか？ ※「達成している」を選んだ場合、⑥に進んでください。	☐ 達成している ☑ 達成していない ☐ 評価対象外事項	市内畜産業の維持、発展を図るためには継続的に行う必要がある。
	③民営化で目的を達成できるか？ ※民営化・・・事務事業の全部又は一部の実施主体を全面的に民間事業者等に移行すること。 （民間委託は、権限に属する事務事業等を委託することで、民営化とは異なる。）	☐ 可能性はある ☑ 可能性はない ☐ 評価対象外事項	補助事業であり、また、法令等に基づく業務であるため
	④「対象」・「意図」の設定は現状のままで良いか？	☑ 現状のままでよい ☐ 見直す必要がある ☐ 評価対象外事項	畜産農家が家畜の伝染性疾病の予防、農村環境の保全に取り組む事業の実態は目的に適合している。
有効性・効率性	⑤今後、有効性や効率性を向上させる可能性はあるか？ 可能性がある場合は、⑤－２，３を記入する。 可能性がない場合は、理由を記入する。	☐ 有効性向上の可能性がある ☐ 効率性向上の可能性がある ☐ 両方可能性がある ☑ 可能性がない	家畜の伝染性疾病の予防と共に環境保全に努めながら、経営の安定・維持を図る上で有効性や効率性の向上は難しい。
	⑤－２ 有効性や効率性を向上させる手段は何か？ 該当する手段を選択し、具体的な方法と得られる効果を記入する。手段が「類似事業との統合・役割見直し」である場合は、該当する類似事業を記入する。	☐ 民間委託等 ☐ 臨時的任用職員等の活用 ☐ ＩＴ化等業務プロセスの見直し ☐ 受益者負担の見直し ☐ 類似事業との統合・役割見直し ☐ 上記以外の方法	類似事務事業名称 1：　　実施主体（所管部署）： 類似事務事業名称 2：　　実施主体（所管部署）：
	⑤－３ 推進にあたっての課題はあるか？（一時的な経費増・市民の理解等）	☐ ある ☐ ない	

コード	3265	事務事業名称	畜産振興事業	所属名	農政課

今後の方向性

⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。

- ☐ 改革・改善して継続
  - ☐ 手法プロセスの改革・改善
  - ☐ 事業規模の拡大・縮小
  - ☐ 統合・役割見直し
  - ☐ その他
- ☐ 廃止
- ☐ 休止
- ☑ 現状のまま継続

畜産業の振興のために、農業情勢の動向を注視し、適宜事務の見直しを行う。

⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。

		経費		
		削減	不変	増加
成果	向上	☐	☐	☐
	不変	☐	☑	☐
	低下	☐	☐	☐

現状の経費で成果はでている。
経費を削減すれば成果が低下する。

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見）
※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など

家畜防疫事業については、家畜の伝染性疾病の発生の予防及びまん延を防止するために、畜産農家から本事業に対する継続要望が非常に高い。

所属長コメント

・都市化に伴い基幹農業である畜産業を環境に配慮しつつ、調和の取れた施策を図りながら振興していきたい。
・妥当な評価である。

評価調整委員会評価

- ☐ 改革改善して継続
  - ☐ 手法プロセスの改革・改善
  - ☐ 事業規模の拡大・縮小
  - ☐ 統合・役割見直し
  - ☐ その他
- ☐ 廃止
- ☐ 休止
- ☑ 現状のまま継続

担当課の評価のとおり，現状のまま継続とする。